

III 症状ごとの対応

6 けいれん(ひきつけ)を
起こしたとき

けいれんとは、からだ全体やからだの一部が
つっぱたり、ピクピクしたり、脱力したり
することです。



家庭での対処方法



まずはあわてないこと!

- 1 周囲に危険物があれば、取り除く。
- 2 けいれんの途中、吐いても吸い込んで窒息しないように、顔を横に向ける(できれば左側を下に)。
- 3 呼吸しやすくするため、頭をうしろにそらしたり(ただし、首がつっぱっているときは無理しない)、衣服をゆるめる。
- 4 以上を実行したうえで、よく観察する。

何分続いたか、目(ひっくり返った、一点をじっと見た)の位置、手足の動き(特に、左右対称か)、終わってから泣いたか、眠ったか、呼んで反応したか、など。



おさまったら救急外来やかかりつけ医に
電話して指示を受けて下さい。

+ ただしこんなときはすぐ病院へ!

救急車の利用も考えましょう。

- 初めてのけいれん。
- 5分以上続く。
- 熱がない。
- 6か月未満の乳児(赤ちゃん)。
- 片足片腕だけのけいれん。
- けいれんのあとも意識がもどらない。



! 注意すること

! 口の中に物や指を入れない。
ふつうは舌をかむことはありません。口の中に指や物をいれると、口の中を傷つけたり、歯が抜けたたり、舌を押し込んで窒息するものになったりするので危険です。



! ゆずったり、たたいたり、飲み物や飲み薬を与えたりしない。